

かえるか 「蛙化現象」

野瀬 隆平

それぞれ別の場所にいる三人での鼎談は、コロナ禍における Zoom ミーティングなら
ではの企画であった。

一人は台湾の学生。台北大学を卒業後、更に日本で勉強したいと思い、日本に滞
在中である。二人目は、逆に台湾の大学で教えている日本人で、台北に住んでいる。も
う一人は、この会を手配してくれた台北に住んでいる我々の仲間の日本人である。

その時のテーマの一つ、日本人と台湾人の違いについて論じている中で、台湾の学
生から聞いて始めて知ったのが、「蛙化現象」という言葉である。彼の意見によると、
日本人は台湾の人に比べて蛙化現象を起こし易いという。

そもそも、これはどのような現象を表わすのであろうか。「好意を抱いている相手
が、自分に好意を持っている事が明らかになると、その相手に対して逆に嫌悪感を持
つようになる」状態を意味するもので、心理学で 2004 年頃から使われ出したものとい
う。

グリム童話の『かえるの王様』の話しに由来しており、童話では「嫌い」だったの
が「好き」に変わる話であるが、逆に「好き」であったのが、相手の嫌な面を見て、
「嫌い」に突然変わる現象を意味する場が多くなったという。

具体的には、好きだと思っていた彼氏のささいなネガティブな行動、例えば駅の改
札を出る時に IC カードの残高不足で通れなくなった場面や、上司に怒られている姿
を目撃した時などに、突然それまでの好意的な感情が冷めるのが、この現象なのであ
る。

今まで全く知らなかった「蛙化現象」という用語であるが、2023 年上期のトレンド
用語の一位になっている。Z 世代（デジタル・ネイティブ）と呼ばれる若い世代で特
に使われるそうだ。

台湾の学生が云いたかったのは、「台湾の人は一時的な相手の行動で判断を変える
ことは無いが、日本人は影響を受けやすい」ということ、少なくとも彼にはそう見え
たのであろう。

我々日本人が全く気付かないことを指摘されたように思えたが、果たしてどうであ
ろうか。